

2021年度(令和3年度)学校評価自己評価表

常金中学校区	校番 66	福山市立 常金丸小学校
最終更新日		2021年(令和3年)1月6日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題解決力	コミュニケーション力	挑戦する力	地域貢献力
○成果が表れている。重点を絞って取り組みを行ってもよい。 ○子どもに寄り添い、地域に目を向けた取り組みが行われている。 ○児童生徒のより良い育成・成長に取り組んでもらいたい。	○安定した地域環境や家庭基盤から、児童生徒は純朴で基本的な生活習慣が身に付いている。 ○学校と地域が相互に協力して子どもを育てており、子どもは地域行事等へ積極的に参加する。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	郷土愛と志を持ち、深く考え、仲間とともにやりぬく子ども			
		中学校区として統一した取組等	○小中合同研修によるパフォーマンス課題を取り入れた「子ども主体の学び」のある単元・授業づくり ○ユネスコスクールとして、ESDの視点で児童生徒が探究し、行動する生活科・総合的な学習の時間 ○21世紀型“スキル&倫理観”の育成をめざす小中合同運動会			

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題解決力	コミュニケーション力	挑戦する力	地域貢献力	
「地域の宝」となる子どもを育成する。 ○子ども主体の学びの場を充実させ、児童に学力をつける。 ○児童に当たり前のことが当たり前にできる力をつける。 ○地域と進んで関わり、地域から学び、地域を元気づける力を児童につける。	1・2年	・問題を理解し、それを何とか解決しようとしている。 ・解決方法を学び、生活の場面に役立てようとしている。	・自分の思いを結論先行理由付けをして他者に説明している。 ・自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめている。	・決められたことを進んで実行している。 ・友達と協力して、自分の役割を最後までやりきろうとしている。	・地域の人と活動し、地域のよさに気付いている。 ・地域の行事に進んで参加している。	
学校教育目標	めざす子ども像	3・4年	・課題を見つけ、既習事項や生活経験を活かして解決しようとしている。 ・様々な解決方法を知り学習や生活の場面に役立てようとしている。	・自分の考えを結論先行理由付け、相手意識を持って他者に説明している。 ・自分の考えを伝えて伝え、相手の考えを素直に受けとめている。	・自分で決めたことを進んで実行している。 ・友達と励まし合って物事を最後までやりきろうとしている。	・地域のことを体験的に学習し、地域のよさを知っている。 ・地域の人に喜んでもらえることを考えて実行している。
現状	考える行動するかわる	5・6年	・解決すべき課題を見つけ、情報を比較・分類・関連づけながら、解決までの見通しを持って課題を解決しようとしている。 ・学んだ解決方法を駆使してよりよい方法で解決し、学習や生活の場に役立てようとしている。	・自分の考えを結論先行理由付け、相手意識を持ってはっきりと説明し、他者の考えを聞いて、よりよい意見へと発展させている。 ・自分の考えを適切に伝えたり、他者の考えを的確に受けとめたりしながら、互いのよさを認め合っている。	・目標を決め、失敗を乗り越えながら挑戦している。 ・他者と協働して、物事をねばり強く最後までやりきろうとしている。	・地域のことを体験的に学習し、地域のよさや課題を伝えようと考えている。 ・地域の発展のためにできることを考えて実行している。
	研究	テーマ	「新しい学校で自分を表現できる子どもを育てる」 ～「挨拶ができる」から「自慢話ができる」へ～			
		内容等	「子ども主体の学び」を実現する評価と指導の在り方 ～児童の「考え」・「思い」をもとにした単元づくりを通して～			
	めざす授業の姿	友だちと協働して学ぶことが面白いと感じる授業 キーワード：ワクワク感「やってみよう」「なぜだろう」				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経 営目標	重 点 分 類	短期 経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)					
						□指標に係る 取組状況	加 以 評 価	達 成 評 価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の 達成状況	加 以 評 価	達 成 評 価	総 合 評 価	改善方策	
2	課題解決力・挑戦する力の育成	★	継続	友達と協働して学ぶことがおもしろいと感じる授業をつくる。 ・児童から自然に出てくる言葉を大切にし、児童の思いをもとにした授業を行う。 ・自分の課題から目標を設定させ、目標を身近に感じさせながら挑戦させる。	・授業の中で、自分の思いや考えを表現し、「授業がおもしろい」と感じる児童を80%以上にする。 ・国語・算数・理科・社会の単元末テストの平均点を80%以上にする。 ・体力テスト県平均以上の種目を70%以上にする。	□自分の思いや考えを表現できる児童が増え、「授業がおもしろい」と感じている児童は、84.6%である。 □各教科の平均点(%) 国語 算数 理科 社会 82.8 84.0 80.8 81.8 □県平均を上回った項目数 男子 22/48 45.8 女子 32/48 66.6 全体 54/96 56.25 一昨年度の45.8%から10.45ポイント伸びている。	3	3	・表現方法を児童と考え、個に応じてレベルをあげたり表現の幅を広げたりできるようにする。 ・家庭学習や帯タイムに、意図的に思考力を問う問題に取り組む。また、放課後個別指導を行う。 ・長座体前屈20秒体づくりと柔軟体操を継続する。 ・ボール投げ 日常的に投げる運動に親しませる。(バットボトルシューター) ・上体おこし 長期休業を活用し、家庭と連携して取り組み、休み明けに再計測を行う。	□表現レベルを示したり、音読での表現に取り組んだりして、「自分の思いを表現し授業がおもしろい」と感じている児童は、80.9%であった。 □基礎の徹底と思考力を問う問題や活用問題への取組により、全ての教科も平均点80%以上であった。 国語 算数 理科 社会 83.6 80.5 82.0 84.0 □体力向上週間を設定して取組み、再計測の結果、長座体前屈は91.6%、ボール投げは100%伸びた。 □再計測で県平均を上回った項目数 男子 28/48 58.3 女子 36/48 75.0 全体 64/96 66.7 ◎児童自身が課題を発見したり設定したりしながら取り組む中で、友達と解決したりさらに挑戦したりしようとする力が高まってきた。	4	3	3	・どの教科でも、「表現すること」を意識し表現できたことへの肯定的評価を返していく。 ・基礎学力の向上とともに、思考力を高める問題に取り組ませる。 ・日常的に体力向上につながる遊びを取り入れる。	
2	コミュニケーション力・挑戦する力の育成		継続	児童が互いに認め合い、自己肯定感を高めることができるようになる。	・教職員から率先して挨拶をするほか、児童会を中心に挨拶運動を行う。 ・授業や学校生活の中で、友達の考えを認めほめる活動を行う。	・挨拶・返事ができる児童の割合を80%以上にする。 ・自分の考えが認められていると思う児童を80%以上にする。	□自分から相手に届く声の大きさで気持ちよく挨拶している(児童評価)85.1%(教職員評価)58.5%である。 □自分の考えが認められていると思う児童は80.6%である。	3	3	・「あいさつレベル」として指標を設け、具体的な指導をする。 ・教職員の率先挨拶を続け、良い挨拶をその場でほめるなど励ましを続ける。 ・目立たないが根気よく頑張っている児童にもスポットを当てるよう、教職員から児童に発信していく。	□挨拶運動や「挨拶レベル」による指導を継続した結果、気持ちよく挨拶している児童が83.3%であった。 □友達の良いところを認め合う活動により自分の考えが認められていると思う児童は、83.0%となった。 ◎挨拶や良さを見つける活動で良好な人間関係が築け、友達を認め合う基盤がしっかりしてきた。	4	3	3	・子どもをよく観察し、結果はどうあれ努力の過程を認める。
2	地域貢献とともに学校の信頼度を向上させる		継続	児童が地域と連携した活動を通して、地域の一員としての自覚を持たせる。 児童・保護者・地域の人・教職員が充実感や安心感をもつことができるようになる。	・地域と連携した活動を行い、学んだことを積極的に地域に発信する。 ・組織及び各教職員でスケジュール管理や業務削減を行いながら効率的な業務の遂行を図り、働き方改革を進める。	・学んだことを保護者や地域に対して、学期に1回以上発信する。 ・行事等の活動について地域の人の肯定的評価を90%以上にする。 ・教職員の勤務時間外在校時間を45時間以内の教職員を100%にする。	□学校だよりに子どもの学んでいる姿の写真を掲載し、1学期は3回発行した。公民館や交流館等にも発送し、より多く地域の人に見ていただく場を設けた。 □行事等の活動について地域の人の肯定的評価は94%である。 □退校時刻の設定をすることともに、2学期から開校時刻を20分遅くし、勤務時間外在校時間が45時間以内となった教職員は100%である。	3	3	・学んだことについて、子どもが表現した言葉も用いて発信することで、より伝わるようにしていく。 ・行事等の活動について、さらに理解・協力を得ることができるよう、早めに情報発信をしていく。 ・学期末の成績処理の時期に勤務時間外在校時間が多くなっているため、計画的に見直しをもって業務を進める。	□子どもの学びの姿についての学校だよりを4回発行した。成果物(手紙や掲示物)を地域の施設や商店へ届けることができた。 □行事等の活動について肯定的評価は95%となった。 □勤務時間外在校時間が45時間以内となった教職員は100%となった。 ◎より丁寧な連携と、時間を意識した業務遂行の意識が高まった。	3	4	4	・様々な情報発信方法を活用していく。 ・業務の進捗状況を見える化する。

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評価基準		評価基準		評価基準	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。